

〔報道〕

・『報知新聞』 昭和十一年六月二十六日



### 大綱の成るまで政府展を急ぐな 春陽会からの難題

今秋「政府展」の陣容を決定する、在野各団体代表懇談会は二十六日午前九時半から文相官邸に開かれるが、出席団体は二部会、東光会、主線協会、春陽会の四団体のみとなり、結局旧帝展系の三団体を除いて在野からの出席は春陽会のみとなった。そこで春陽会では二十五日午後委員会を開いた結果

いた結果、

- 一、各在野団体を「政府新人展」と同一レベルの登龍門たらしめること。
- 一、従つて在野団体内で将来生産される会員(あるひは特選二回)をも政府招待展の無鑑査(被招待者)とすること。

各団体の会員を作ること。

即ち今秋の「政府展」不開催の動きを提出することに決したので、文部省が面目のために「政府展」開催を固持する場合は、春陽会提案はすこぶる難題となるに至つた。また右提案が入れられぬ時は、春陽会は文相試案支持の旗をまいて二科、独立同様退場する覚悟で、「在野から招待展への途を開け」と食下つて行く方針である。

二部会側は「総合を看板とせず、抱擁の精神を生かせ」といふ態度で臨み、無理な総合よりはむしろ二部会即政府新人展、つまり松田改組以前に逆戻りしても開催主義を主張する模様である。

### 新人展と招待展 第四部は同時に 懇談会で方針決まる

帝国美術院残留会員 第三、四部(彫刻、工芸)懇談会は二十五日午後三時半から文相官邸に開催、清水院長、石丸主事、河原次官、岩井秘書官

が出席し、会員側は山崎、北村、建島、朝倉、斎藤、藤井、香取、板谷、清水、津田の諸氏出席が出席し、第三部会は新人展と招待展を一、二部通りに分けることに賛成、無鑑査銚衡及び展覧会委員選出については廿九日再開して決定することになった。第四部は招待数少きため展覧会を期間で分けて、室で分けることとして新人展を開き、招待出品は「招待室」を特設して同期間開催する方針で、更に無鑑査及び展覧会委員は近になった。